

「…あなた、なんでこんな男を乗せないといけないのよ…」

A Takeshi Yokoi film FULLMEDIA CREATIVE AXA BIO-TIDE Presents 'HITCH-HIKE'

HITCH-HIKE

ヒッチハイク

溺れる箱舟

starring Susumu Terajima Yuhki Takeuchi Hiroshi Yamamoto Kazuyoshi Ozawa

executive producer Masahiro Seki Tadashi Yamamoto Kenji Matsui producer Yoji Nagamori Hiroki Ohta screenplay Kazu Yuhji Nagamori photography Tetsu Simomoto music Kohji Endou director Takeshi Yokoi

寺島進 竹内ゆう紀 山本浩司 小沢和義 監督・横井健司

製作・関正博 山本正 松井建始 原案・プロデューサー 永森裕二 プロデューサー 大田裕輝 脚本・KAZU 永森裕二 撮影監督・下元哲 録音・岩丸恒 美術・西村徹 音楽・遠藤浩二 編集・山本浩司 制作担当・榎雅威 助監督・広田幹夫 製作・フルメディア/クリエイティブアクサ・バイオタイド 配給・バイオタイド ©2004「ヒッチハイク」製作委員会

HITCH-HIKE

A Takeshi Yokoi Film FULLMEDIA CREATIVE AXA BIO-TIDE Presents 'HITCH-HIKE' starring Susumu Terajima Yuhki Takeuchi Hiroshi Yamamoto Kazuyoshi Ozawa executive producer Masahiro Seki Tadashi Yamamoto Kenji Matsui producer Yuuji Nagamori Hiroki Ohta screenplay Kazu Yuhji Nagamori photography Tetsu Simomoto music Kohji Endou director Takeshi Yokoi



明日、どんな人に出会うのか？ どんな事件に遭遇するのか？
人は誰でも近い未来さえ知らずに今この瞬間を生きている。
人生とは不確かなロードムービーなのかもしれない…。



物語 北海道・新千歳空港。
空港のベンチに座り、ノートパソコンを広げチャットを楽しむ中年男。保険会社に勤務する姿夫（寺島進）は東京を離れ、支社長としてこの北海道に単身赴任している。今日は妻の麗子（竹内ゆう紀）が半年ぶりに東京からやって来る日。彼が妻の到着を待つ間、チャットで会話を楽しむその相手は、不倫関係にある会社の部下だった。姿の妻・麗子はすらりとした長身の若く美しい女性である。久しぶりに再会した姿夫妻だが二人の表情になつかしさや喜びはなかった…。

広々としたアスファルトの道をぐんぐん進んでいく俊夫の車。突然ひとりの男が道路に飛び出し、俊夫はあわてて急ブレーキを踏む。男は、「車が故障してしまったが誰も止まってくれず、つい飛び出してしまった」と困り果てた口調で話す。反対する麗子を尻目に、俊夫はこの男を車に乗せるのだった。

黒田と名乗ったその男（小沢和義）は陽気で礼儀正しく、俊夫はすぐに気を許すのだった。だがあたりが暗くなった頃、黒田の態度が一変する。麗子に対し異常な興味を示す黒田は、いきなり彼女の体に触れようとする。激怒した俊夫が強引に黒田を車から降ろした瞬間、彼はトランクからショットガンを取り出し、二人を脅して「このままだと走り続ける！」と強要する。携帯電話を取り上げられ、外部との連絡を断られた俊夫と麗子。やがて全財産を燃やされ、妻の立てた恐るべき犯罪計画も露見し、極限状態に達した二人の行き着く先は…。

いくらほしいと強く願っても、物を買うように気軽に手に入れることができないのが人の心。近年、多発している“連れ戻し事件”や“監禁事件”。閉塞した現代社会ではいつその被害者になっても不思議ではない。また加害者と化してしまう可能性をも秘めている。

北海道に単身赴任し、不倫中の夫。そんな夫への不信任を持つ妻。心に距離のある夫婦が久しぶりに再会し、夫がほんの親切心で見知らぬ男を車に乗せたとき、運命の歯車が狂い出した…。
「ヒッチハイク 溺れる箱舟」は美しい中にどこか寂寥感を感じさせる北海道を舞台に繰り広げられるスリリングな物語。
ヒッチハイカーに脅され、予期せぬ危険に身を晒すことになる主人公に、今や日本映画界を牽引する存在となった寺島 進。
北野映画の常連にして、最近では『空の穴』『幸福の鐘』と単館系ヒット作に次々主演している彼が、一見平凡で実は自己中心的、本質的な弱さを持つ主人公を確かな演技力で演じている。
狂気的なヒッチハイカーに扮するのは『飼育の部屋』の女性拉致監禁犯人役も記憶に新しい小沢和義。狂気の中にも時折見せるビュアな表情が見逃せない。さらに、本作では脚本もてがけている。
また『ほかのハコ船』『リアリズムの宿』に出演の山本浩司が自然体で圧倒的な存在感を残している。
主人公の妻・麗子にはCMで活躍中の竹内ゆう紀。体当たり演技で映画初主演を果たした。
メガホンを取ったのは『HEAT-灼熱』『飼育の部屋 終のすみか』の俊英・横井健司。
オール北海道ロケを敢行、雄大な美しい自然をバックに、登場人物の細やかな心理描写を描きこみ、珠玉のサスペンスドラマを完成させた。



目に見えない「赤信号」の点滅が怖い。そして人間という名の動く「赤信号」もまいった!!
北川れい子さん 映画評論家

思へ、もしも…展開…
迫力のある演技力…
僕はストーリーに夢中!
わー! ヒッチハイクつて実は危ないんだ!
チーヤンさん タレント

非日常の狂気は日常に転がっている。
ねえ…拾つてみませんか?
夏生ゆうなさん (女優)

男も女もサイコキラーも、みんなながき。そこが現代で、リアルで、少し哀しい。
古殿智之さん (映画監督)

綺麗な皮膚を剥がしてみると、
どたらおんなの肉がみる。
だから、人は美しい。
…あんなの正体みつけた。
三池崇史さん (映画監督)

寺島進 竹内ゆう紀 山本浩司 小沢和義
監督:横井健司
製作:岡正博/山本正/松井建始 原案・プロデューサー:永森裕二 プロデューサー:太田裕樹 脚本:KAZU/永森裕二
撮影監督:下元哲 録音:岩丸恒 美術:西村徹 音楽:遠藤浩二 編集:山本浩司 制作担当:雄雅威 助監督:田田幹夫
製作/フィルムメディア/クリエイティブアックス/ハイオタイト 配給:ハイオタイト (2004年/日本映画/カラー/ビスタサイズ/ステレオ/83分)
©2004「ヒッチハイク」製作委員会 <http://www.fullmedia.co.jp/hitch/>

2004年 7/17(土)よりスリリンググレイトロードショー!
連日 <7/30(金)まで> PM.8:40より1回上映(終10:05) 特別鑑賞券1400円好評発売中! 当日券/一般1700円、学生1400円、高・中・小・シニア1000円

地下鉄中央線 九条駅 6番出口徒歩3分
シネ・ニュー・ウオ
TEL.06-6582-1416
大阪市西区九条1-20-24
<http://terra.zone.ne.jp/cinonouveu/>